

Supportive and Palliative Care Indicator Tool (SPICT-JP)

SPICTは健康状態が悪化するリスク、あるいは亡くなるリスクのある方を同定し、その方々の支持療法・緩和ケアにおける満たされていないニーズを評価するガイドです。

健康状態の悪化を示す全般的な指標のうち2つ以上が当てはまるか確認する

パフォーマンス・ステータス（PS）が低いか低下しつつあり、改善の見込みが限られている（目安としてPS3以上、つまり日中の50%以上の時間を臥位または座位で過ごしている）	
身体的・精神的問題により、日常生活動作のほとんどを他人のケアに頼っている	
過去6か月間に2回以上の予定外入院があった	
過去3-6ヶ月間に顕著な体重減少（5-10%）があり、かつ／またはBMIが低い	
原疾患の適切な治療に関わらず、苦痛となる症状が続いている	
患者が、支持・緩和ケアを求めている、または原疾患の治療中止を求めている	

進行した状態を示す臨床指標が1つ以上あるか確認する

がん疾患

進行性の転移性がんによる生活・身体機能の低下がある	
体力低下のため抗がん治療（化学療法および放射線治療）ができない、または症状緩和のための抗がん治療を受けている	

認知症／フレイル（虚弱）

介助なしには着替え、歩行や食事ができない	
経口摂取量の低下、嚥下困難がある	
尿失禁や便失禁がある	
発語によるコミュニケーションができない、社会的交流がほとんどない	
大腿骨骨折や複数回の転倒を経験している	
反復する発熱のエピソードや感染症（誤嚥性肺炎など）がある	

神経疾患

適切な治療に関わらず進行する身体機能や認知機能の悪化がある	
発語の問題に伴いコミュニケーションが困難になってきている、あるいは、進行性の嚥下困難がある	
反復する誤嚥性肺炎、息切れ、呼吸困難感または呼吸不全がある	

心疾患・血管疾患

NYHA Class III/IVの心不全、または広範囲にわたる治療不可能の冠動脈疾患があり、安静時もしくは軽度の労作で呼吸困難や胸痛が生じる	
重症で手術不能な末梢血管疾患がある	

呼吸器疾患

重症慢性肺疾患があり、かつ、急性増悪でないときにも安静時またはわずかな労作で呼吸困難感を生じる	
在宅酸素療法を含む長期の酸素療法を必要とする	
呼吸不全のために人工呼吸器管理が必要だったことがある、または現在も必要としている	
人工呼吸器管理が予後およびQOLを改善しないため適応にならない	

腎疾患

慢性腎臓病（CKD）の Stage 4または5（推算糸球体濾過量（eGFR）<30ml/min）で健康状態の悪化を伴う	
腎不全によって、他の予後規定疾患や治療が複雑になっている	
透析を中止した、または中止が検討されている	

肝疾患

進行性肝硬変があり、以下の一つ以上を1年以内に併発している <ul style="list-style-type: none">利尿薬に反応しない腹水肝性脳症肝腎症候群細菌性腹膜炎反復する静脈瘤出血	
肝移植が予後およびQOLを改善しないため適応にならない	

支持療法・緩和ケアとケアの計画を見直す

患者が適切な治療を受けられるように現在の治療と投薬内容を見直す
症状またはニーズが複雑でマネジメントが困難な場合には専門家への紹介を検討する
現在および将来のケアのゴールやケアの計画について、患者や家族と合意する
患者が意思決定能力を喪失するリスクがある場合には、前もって計画するようにする
プランを記録し、共有し、ケアをコーディネートする

Supportive and Palliative Care Indicator Tool (SPICT-JP) について

緩和ケアが必要と考えられる患者さんを、適切なタイミングで同定するために、より信頼性の高い方法が求められています。

SPICT (Supportive and Palliative Care Indicator Tool) とは？

SPICTは、緩和ケアアプローチを提供することでメリットがあると思われる患者さんの同定をサポートするツールです。緩和ケアアプローチは、予後が数週間から数日の患者さんのためだけのものではありません。原疾患に対する治療を受けながらも、状態が悪化してきている人にも適用され、症状コントロール、コミュニケーション、患者さんと家族や大切な人のためのケアの計画を含みます。

SPICTは、進行がん、呼吸器疾患、心・血管疾患、神経疾患、認知症、肝疾患、腎疾患を持つ患者さん、虚弱状態にある患者さん、在宅で医療依存度の高いケアを受けている患者さんを対象としています。SPICTには、全身状態の悪化を示す全般的な指標と、進行した状態を示す臨床指標が含まれ、文献レビューと、英国および他国の臨床家の合意を元に作成されました。

SPICTの目的

以下のことを可能にするための「きっかけ」を作ることが目的です。

- 患者さんの関心事や今後のケアの計画について話し合うこと
- ケアや治療のフォーカスを徐々に支持・緩和ケアに移行すること
- 将来起こりうる身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題に備えること
- 介護者や家族に適切な情報提供をすること
- 医療従事者/ケア従事者間のよりよいコミュニケーション

SPICTが目的としないこと

- 予後予測ツールではありません。
- きっかけを提供するものであり、最終的な臨床判断に代わるものではありません。

使い方の例

- 訪問診療、外来、入院病棟で、患者さんを診たときに使ってみる
- 患者リストがあれば、スクリーニングとして全ての患者さんに使ってみる
- 一日の外来患者さんを振り返る際に、気になる患者さんに使ってみる
- 多職種でのカンファレンスの際に、全ての、あるいは気になる患者さんに使ってみる
- 患者さんの状態が変化したときや、療養の場が移行するときに使ってみる



SPICTで同定された患者さんとの会話の始め方の例

- ご自身の今の病状・状況についてどうお考えになっていますか。これからのことについてはどうお考えですか。
- 今の状態でできるだけ長くいられることを私たちも願っています。でも、万が一のためにお尋ねするのですが、もしも病状が進んで身の回りのことができなくなったらどうしようかと考えたことがありますか？
 - そのことについてお話することはできますか？
 - どんなことを考えたか、教えてもらえますか？
 - それはなぜですか？
 - そのことをご家族や大切な方と話し合ったことはありますか？
 - （話し合ったことがある場合には）ご家族や大切な方はあなたの思いを理解してくれていますか？
- これからの生活で大事にしたいと思っていることがあったら教えてもらうことはできますか？
- 今後ケアや治療を受けていくなかで、これだけはしたくない、されたくない、ということがある方もいます。
 - そのことについて、お話ししたほうがよさそうですか？
 - もしあれば、それは何か、またどうしてそう思うのか教えていただけますか？

*ご本人とのコミュニケーションが難しい際には、上記の内容をご本人がどのように考えていたのかを、ご家族や大切な方に尋ねてみるのがよいでしょう。

次にすべきことは？

現在の治療とケアを見直し、必要であれば適切に変更する
将来のケア計画を患者さんや家族と話し合い、合意する
他のチームメンバーとも話し合う
計画を記録し、共有し、コーディネートする